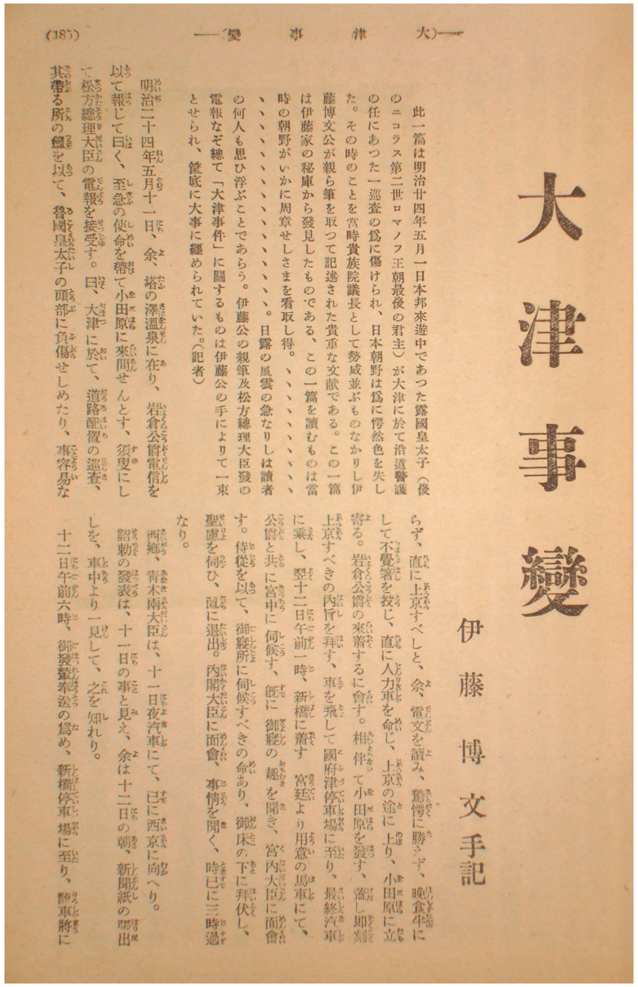
4-3-1　欧米列強の侵略と条約改正

大津事件（条約改正）



大津事變

伊藤博文手記

此一篇は明治廿四年五月一日本邦來遊中であつた露國皇太子（後のニコラス第二世ロマノフ王朝最後の君主）が大津に於て沿道警護の任にあつた一巡査の爲に傷けられ、日本朝野は爲に愕然色を失した。その時のことを當時貴族院議長として勢威並ぶものなかりし伊藤博文公が親ら筆を取つて記述された貴重な文獻である。この一篇は伊藤家の秘庫から發見したものである、この一篇を讀むものは當時の朝野がいかに周章せしさまを看取し得。、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。日露の風雲の急なりしは讀者の何人も思ひ浮ぶことであらう。伊藤公の親筆及松方總理大臣發の電報なぞ總て「大津事件」に關するものは伊藤公の手によりて一東とせられ、篋底に大事に纏められていた。(記者)

明治二十四年五月十一日、余、塔の澤溫泉に在り、岩倉公爵電信を以て報じて曰く、至急の使命を帶て小田原に來問せんとす、須臾にして松方總理大臣の電報を接受す。曰、大津に於て、道路配置の巡査、其帶る所の劍を以て、魯國皇太子の頭部に負傷せしめたり、事容易ならず、直に上京すべしと、余、電文を讀み、驚愕に勝へず、晩食半にして不覺箸を投じ、直に人力車を命じ、上京の途に上り、小田原に立寄る。岩倉公爵の來着するに會す。相伴て小田原を發す、蓋し即刻上京すべきの內旨を拜す、車を飛して國府津停車場に至り、最終汽車に乘し、翌十二日午前一時、新橋に着す 宮廷より用意の馬車にて、公爵と共に宮中に伺候す、既に 御寢の趣を聞き、宮內大臣に面會す。侍從を以て、御寢所に伺候すべきの命あり、御床の下に拜伏し、聖慮を伺ひ、直に退出。內閣大臣に面會、事情を聞く、時已に三時過なり。

西鄉、青木兩大臣は、十一日夜汽車にて、已に西京に向へり。詔勅の發表は、十一日の事と見え、余は十二日の朝、新聞紙の張出しを、車中より一見して、之を知れり。

十二日午前六時、御發輦奉送の爲め、新橋停車場に至り、鹵簿將に

＊毛利家文庫　75維新記事雑録20「大津事変（伊藤博文）」
＊雑誌「改造」10巻1号（昭和3年1月）に載せられた，大津事件についての伊藤博文の手記で，「事変突発と共に，朝野は愕然として色を失ひ，…」と記されている。

解　説

条約改正への努力は，岩倉使節団を先駆けとして，寺島宗則・井上馨・大隈重信らによって進められましたが，井上の欧化政策や外国人判事の任用問題等で何度も頓挫し，1889（明治22）年には大隈が国家主義団体員に襲撃されるという事件もあって，なかなか進展しませんでした。

1891（明治24）年にはイギリスが改正に応じる意向を示し，外相青木周蔵が交渉を進めましたが，調印直前に，来日中のロシア皇太子ニコライ（のちのニコライ二世）が日本の巡査に襲撃されるという事件（大津事件）で引責辞任し，またも交渉は中止されました。

青木周蔵は山口県厚狭郡生田村（現，山陽小野田市埴生）に生まれ，萩藩医だった青木周弼の養子となりましたが，医の道を捨てて外交の道に進みました。1894（明治27）年の日英通商航海条約では，駐英公使として陸奥宗光外務大臣とともに領事裁判権の撤廃に成功しました。

＊国立国会図書館憲政資料室に「青木周蔵関係文書」がありますが，当館にも，周蔵が日野宗春にあてた書簡4通（日野家文書108）など，幕末から明治にかけての数通の書簡類が残っています。